

2020/11/19-2

(うと Q 世話し 今迄君、嘘をついてこなかったかい?)

「出たところ勝負」「破れかぶれ」で「火事場の馬鹿力」

全て非論理。

昨今、様々な面で人間の能力を超え始めた AI に勝つには、逆説的な言い方になりますが、上記のような人間の不可思議な力に依るしかない事が想像されます。

或いはまた

「捨て身で掛かる」「捨て石となる」のを「損を覚悟で」等も合理、効率、期間内勝敗、独断的な言い方をすれば「極限大利益=極限大自己防衛」を重んじる AI (と言いつつ結局は「解」として何を input するかはその背後にいる人間次第。換言すればその人間の分身又は化身) が不得手とする又は想定していない分野を開拓するしかない事も想像されます。

元々 AI とて人間のより良き生活に資し、人間の職を奪わずに負荷を軽くするために産まれてきたはずなのに、現在では相手国の暗号の解読やら格差の温床にもなっている Fintech (金融テクノロジー)、IT、他には国民生活完全掌握の為の監視術等どれもこれも本来恩恵を受ける筈の民 (人間様) を苦しめるものばかりが目立つようになって来ております。AI がもともとの目的で使われているのなら、何も冒頭の様な「妙な物言い」をする必要はなかった訳です。

それを敢えて言わざるを得ない処に「現代の矛盾や悲しさ」を感じます。

最近「格差」という言葉を頻繁に耳にしますが、これはそもそも「レベル差」を表す語だったのですが、今ではレベル差よりも「偏り」の方が実感に合います。

偏りを更に煎じて言えば「傾き」「不均衡」「アンバランス」

要するに「ぐらぐらしている」状態でしょう。

ぐらぐらしているので「不安だ」「落ち着かない」「苛立つ」等不快を感じる訳です。

この辺の適正バランスをとるにはどういった変数項があるのか、是非とも AI 君に提示して貰いたいものです。

その提示項目を精査して実行レベルに落とし込むのは矢張我々自身。全て丸投げの貴方任せはいけません。

もし AI をその役に使わないのであれば、止む無く敵に回った AI 君を打破する為に上記の奇策に出るしかないのかもしれませんが。

出番のない事を願うばかりです。

後記)

但し不幸にして出番が来る羽目になったら、何とかそれで戦います。仕方ないので。

それにしても我々は現下「表看板として建てている世界観」が偽らざる目的と合致しているのかを否かを、AI を題目として何処からか問われている様な気がしてなりません。

曰く

「今迄君、嘘をついてこなかったかい？」